

令和2年度(2020年度)第2回北海道子どもの未来づくり審議会 議事録

日 時：令和3年(2020年)2月16日(火) 16:00～17:00
場 所：かでの2・7 820 会議室
出席者：別添「出席者名簿」のとおり
議 題：別添「次第」のとおり

《開 会》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

それでは、定刻になりましたので、ただ今から、「令和2年度 第2回北海道子どもの未来づくり審議会」を開催いたします。本日は、お忙しい中、御出席くださいます、ありがとうございます。議事に入るまでの間、進行を務めさせていただきます、保健福祉部子ども子育て支援課 課長補佐の寄木です。どうぞよろしくお願ひします。

まず、今回の開催方法ですが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策のため、オンラインと会場での対面による開催としております。

また、会場の決まりによりまして、対面では1m以上の間隔を開けることが義務づけられておりますことから、委員の皆様の間隔を1m以上開け、さらに、机にパーテーションを設置しております。

次に、留意事項ですが、オンラインでも参加している関係上、発言される方は、お名前をおっしゃってから発言をお願いします。

また、オンラインで参加の方は、発言される時以外は、マイクをミュートにしてくださいようお願いします。

何かと御不便をおかけすることもあるかと思いますがどうぞよろしくお願ひいたします。

開会に当たり、保健福祉部子ども未来推進局長から御挨拶を申し上げます。

【子ども未来推進局 鈴木局長】

北海道保健福祉部子ども未来推進局の鈴木でございます。本日は大変お忙しい中、また、天候も大荒れとの予報がある中、お集まりいただき厚くお礼申し上げます。

先ほど、司会の方からお話ししましたとおり、今回の開催は、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策から一部の委員には、オンラインを用いての参加をお願いいたしております。オンライン参加の皆様には、パソコン機器等の事前調整について、お手数をおかけしましたこと、御容赦いただきたいと存じます。

さて、御承知のとおり、昨年9月に公表された本道の合計特殊出生率は1.24と少子化に歯止めがかかっていない状況がございます。そうした中、新型コロナウイルス

スの影響により、妊娠届出数の減少から、更なる出生数の減少が懸念されることや経済的な影響からひとり親など子育て世帯の生活の困窮、家庭にいる時間が長くなることや経済的な不安などから児童虐待の増加の懸念、子育て家庭の孤立化による育児不安の増加など、子どもや子育てを取り巻く施策の推進に大きな影響をもたらす状況となっております。

道としては、こうした中であっても、今年度からスタートした第四期「北の大地☆子ども未来づくり北海道計画」の下、各種施策の着実な推進に取り組んでまいりたいと考えておりますので、今後とも皆様の一層の御協力をお願い申し上げます。

なお、本日の議事ですが、まず、報告事項として、令和2年度の子ども部会の実施が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により困難であったことから、その代替えとして実施しました、「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート」、その結果について御報告します。

次に、協議事項として、今後の子ども部会の実施方法について、これまでも、委員の皆様から御意見をいただいておりますが、事務局から考え方の案をお諮りさせていただきますので、御意見を賜りたいと考えております。

以上、簡単ではありますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

《審議会成立宣言・委員紹介》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

本日は、池部委員、平井委員の2名の委員から所用により欠席する旨の連絡をいただいております。現時点で、委員総数15名のうち、13名の出席をいただいておりますことから、「北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例」第27条第2項の規定に基づき、本審議会が成立していることを御報告申し上げます。

ここで、今回、新しく委員になられた皆様を御紹介させていただきます。

- ・札幌弁護士会の中込（なかごみ）委員様です。
- ・北海道青少年育成協会の山田（園子）委員様です。
- ・北海道私立幼稚園協会の前田委員様です。
- ・日本労働組合総連合会北海道連合会の田中委員様です。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、配付資料の確認をさせていただきます。本日の資料ですが、会議次第、出席者名簿、配席図、資料1「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート結果の概要」、資料2「北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の実施方法について」をお配りしております。不足などがございましたら、お申し付けください。

続きまして、本日の会議の日程であります。次第にありますとおり、「会長・副会

長の選任について」、報告事項として「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート結果について」、審議事項として「北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の実施方法について」となっております。

なお、終了時間は17時を予定しております。

《会長・副会長の選任》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

それでは、次第2、会長及び副会長の選任を行います。

会長及び副会長の選任については、「北海道子どもの未来づくりのための少子化対策推進条例」第26条第2項に「会長及び副会長は委員が互選する」と規定されておりますが、皆様から推薦がありましたらお願いいたします。

【委員一同】

(特段推薦なし)

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

特に推薦はございませんでしょうか。それでは、事務局提案として、会長には引き続き「松本先生」に、副会長には、これまでも学識経験者として、札幌弁護士会から選出していただいている委員の先生をお願いしていることから、「中込先生」をお願いしたいと考えております。

【委員一同】

(異議なし)

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

それでは、会長を松本委員に、副会長を中込委員をお願いすることといたします。まず、松本会長から御挨拶をいただきたいと思っております。

【松本会長】

松本でございます。何期目かになるかと思いますが、また改めて2年という任期を会長という形で務めさせていただくこととなりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

また、今回もそうですが、まだしばらく我慢の形で会議が続くかと思っておりますし、その中で、子ども・子育てを巡る状況につきましては、随分厳しくなってくるのが予想されます。あるいは、そういったことが既にいろいろなところで出ていることかと

思います。そういうことについても、どういうことができるか、いろんな意見を交わしながら、一緒に考えていく時間にできればと思っています。その中で、道にもいろいろお願いを申し上げることが審議会として出てくるかもしれませんが、率直にいろんな意見が交換できる場になればと思っています。

また、オンラインで参加の方々も、本日もこういう形で議事の進行し、発言がしにくいといったことがあるかもしれませんが、また、こういった形が続くかもしれませんが、是非遠慮なく積極的に御発言いただければと考えております。以上になります。

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

ありがとうございます。それでは次に、中込副会長から御挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

【中込副会長】

札幌弁護士会所属の中込律子と申します。委員として就任したてで副会長という重責をいただくこと、誠に恐縮ではありますが、謹んでお受けいたします。私は、弁護士になって10年以上経っていますが、登録当初は子どもの権利に関する活動に重点をおいて活動していました。私のライフステージに合わせて、現在小学生の子どもが2人いるのですが、そうしたライフステージの変化に伴って、子どもの権利よりも母親の権利に関する活動を弁護士会の活動としては、現在は重点的に取り組んでおります。子どもの母親として、子どもの未来のために意見交換ができる場に参加できることをとてもありがたく思っております。

これから皆様勉強させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

ありがとうございます。それでは、ここからの議事進行につきましては、松本会長にお願いいたします。

《報告事項》

【松本会長】

それでは、早速ですけれども議事に入りたいと思います。本日は、お手元の会議次第にもありますとおり、報告事項が1点、審議事項が1点、いずれも子ども部会に関わってのことですけれども、まず昨年度、例年どおり子ども部会は難しいということでアンケート調査を実施して、子どもの参画をなんとか図れないかということで、事務局でも御苦労されて進めていかれたかと思っておりますので、まずは事務局の

方から御説明をお願いいたします。

【子ども子育て支援課 小野主査】

子ども子育て支援課小野でございます。よろしくお願いいたします。

お配りしております資料1「新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート結果の概要」を御覧ください。1のアンケートの概要ですが、まず、本アンケートを実施した経緯ですが、北海道では、道内の中学生と高校生約17名で構成される「子ども部会」を平成17年度から実施しておりまして、参加者の皆さんに「北海道のめざす姿」などのテーマについて協議いただき、発表された意見を道の取組の参考としてきました。

今年度は、(1)目的にあるとおり、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により「子ども部会」の開催が困難であったことから、アンケートにより皆さんの意見をお聞きすることとしました。

内容としては、生活に影響の大きかった新型コロナウイルス感染症に関して、休校期間中の生活のことや心配や不安に思うこと、今後必要だと感じたことなどを確認させていただきました。(2)実施期間ですが、令和2年12月18日から令和3年1月25日までです。(3)対象者は、中学校2年生と高校2年生で、全道の子どもの意見を聞くため、各振興局管内の公立中学校及び高校から1校以上、選定したところ、中学校と高校各17校で実施し、中学2年生672名、高校2年生677名から回答をいただきました。(4)アンケート項目は、中学生10項目、高校生12項目とし、高校生のみの項目は2項目です。

それでは、2の「アンケート集計結果(選択回答)」ですが、まず、中学生・高校生に共通している項目から説明いたします。臨時休業期間中、これは令和2年4月と5月でございましたが、その時のことをお聞かせくださいという質問です。

まず、質問1では、「相談相手がいた」という問いに対して中学生、高校生ともに3人に2人は相談相手がいたと回答しています。

ただし、この質問については、相談を必要としていたのか・いなかったのかという前提を提示していなかったため、捉え方によって回答が異なると思われます。例えば、相談相手がいると答えた人でも、相談する必要があつて相手がいたのか、相談することも何もなかったけれど、何か相談が必要になったときにする相手がいるという前提なのか分からないため、当該質問については、参考までの回答と受け取っております。

質問2「生活リズムを維持した」でございますが、生活リズムを維持できていた割合と維持できていなかった割合は、中学生、高校生ともにいずれも概ね半数に近い割合となっております。

質問3「体を動かす機会があった」でございますが、中学生、高校生ともに半数以上は体を動かす機会があったが、3割程度は動かす機会がない、あるいは少ない状況にあったと回答しています。

質問4「宿題や自習など勉強に積極的に取り組めた」、こちらにつきましては、中学生の半数以上、高校生の4割超は積極的に取り組めたが、中学生、高校生のいずれも3人に1人は積極的に取り組めなかったと回答しています。

次に、大項目「臨時休業終了後の令和2年6月以降の学校再開後のことをお聞かせください」の質問5「学校生活になじめなくなったり、不安を感じた」、こちらにつきましては、中学生、高校生ともに多くが学校再開後の学校生活に不安を感じていなかったと回答しています。

次に、大項目「新型コロナウイルス感染症の影響をお聞かせください」の質問6「将来のことを心配するようになった」、こちらは中学生、高校生ともに概ね2人に1人は将来のことを心配するようになったと回答していますが、高校生の方が中学生より心配している割合が高くなっています。これは高校生の方が、大学進学や就職など、より身近なこととして捉えているものと考えられます。

質問7「社会や地域のことに関心を持つようになった」こちらにつきましては、中学生、高校生ともに4割程度が社会に関心を持つようになったと回答しており、新型コロナウイルス感染症の拡大により、以前より関心を持つようになったことがうかがえます。

次に、大項目「今後、次の対応や対策が必要だと思いますか」の質問8「正確な情報提供と説明（新型コロナウイルスの発生情報、衛生管理など）」です。中学生と高校生の大半が、情報提供が必要だと回答しています。道としては、引き続き、適切な情報提供が求められていると感じています。

質問9「交流の場の確保（オンラインによる先生や友人との交流など）」につきましては、中学生と高校生の多くが必要だと回答しています。

質問10「教育環境の整備（教材の提供やオンラインによる授業体制など）」につきましては、中学生と高校生の多くが、オンラインによる授業体制が必要だと回答しており、オンライン環境の整備求められていることがうかがえます。

次に、「高校生のみの選択回答」でございます。大項目の「新型コロナウイルス感染症の影響を、お聞かせください」、質問「経済的な理由で進路に影響があった」につきましては、多くは、進路に影響がなかったと回答しています。

次に、大項目「今後、次の対応や対策が必要だと思いますか。」の質問「奨学金などの進学費用の充実」ですが、多くが奨学金や進学費用の充実が必要だと回答しています。

最後に、自由記載については、社会全体に関することでは、新型コロナウイルス感染症が収まり、安心して普通に暮らせるようにしてほしいですとか、感染防止に関す

ることでは、マスクの着用など、1人1人が危機感を持ち自覚ある行動を取るべきですとか、こういった御意見をいただいたところです。

これらのアンケートの結果を受けまして、今後、引き続き感染症拡大防止対策に取り組むとともに、何か不安を抱えている生徒への身近な人による対応や今後オンラインでの交流や端末の整備などを関係課へ働きかけしてまいりたいと考えております。以上です。

【松本会長】

ありがとうございます。今年度第1回の審議会で皆さんに御意見をいただいて、前のメンバーでしたけれども、その後、事務局と私の方で内容について議論させてもらって、実施をしたということでございます。皆さんの方から御報告をいただいた内容について、御質問・御意見等はございませんでしょうか。

【五嶋委員】

アンケート調査によると中学2年生を対象にしたということですが、私どもNPO北海道ネウボラで実施する相談事業につきましては、新一年生、スタートラインに立つ子どもの方が、より深刻な影響を及ぼしていたのではないかという印象を受けているのですが、なぜ中学2年生・高校2年生を対象を絞ったのか、この点に疑問を感じました。2年生というのは割と影響がなかった層ではないかと感じますがいかかでしょうか。

【子ども子育て支援課 小野主査】

非常に議論になったところではありましたが、2年生を対象としたのは、1年生の場合、まだ学校生活に慣れていない可能性があることや、3年生の場合は、受験等が目前に迫っている関係もあることから、学校生活に馴染んでいる2年生の方を選択させていただいたところでございます。

【松本会長】

私の方からも補足で、大体アンケートを実施する際は中学2年生・高校2年生というのが多いですけれども、逆に入る年・出る年を抜いて、いろんなことの影響がなさそうなところを対象にするというのは一つの手法です。おそらく、一年生・二年生・三年生それぞれにいろんなことがあるかと思いますが、一年生は入ったばかりですし、三年生は将来どうなるかといったことがあるのですが、そういうようなファクターを抜いてどのような影響が出ているのかということ进行调查したのが今回の結果ということになります。

なので、委員がおっしゃるようなことは念頭にありながらも、そういう資料として

見ていく必要があると思います。もし一年生を実施するのであれば、三年生も含め全学年を対象とするといったことも一つの手法ではあると思います。一年生のみを対象とした場合は、三年生はどうなんだといった問いも出てくるかと思いますが。

【五嶋委員】

ありがとうございます。ただ、コロナ禍が始まったばかりの一年目ということですので、そういったところがあるのであれば、全学年を対象に調査してみるということで、貴重なデータになったのではと思いますので、そういったより困難に陥ってしまった実態の調査についても引き続きお願いしたいなと思います。

【松本会長】

委員御指摘の点で、特に一年生とかあるいは出ていく年とか、いろんな学年によっていろんな困難や感じている点の相違が出てくるかと思いますが、そういう影響が一番少ないであろう学年でこれぐらいの影響がある、こうした資料として見ていくべきだと思います。御指摘どうもありがとうございます。

【山田園子委員】

私も中学二年生と高校二年生だったので疑問もあつたのですが、今お話があつたので、大体理解したのですが、私がよく聞いていたのは、小学一年生、まだ文字もきちんと教わっていない子たちが何の勉強をしたらいいのか、リモートにもなっていない時点でどのようにしたらよいかということが心配だという声を聞いていて、中学一年生に関しても、英語なども分からないし、担任の先生も全然知らないのにどうしたらいいんだろう、何も進んでないという現状を耳にしている、周りの親や子どももすごく不安になっていたところだったので、そういうところも考慮して、いろんなところから、皆の不安や気持ちを汲み取っていただければいいのかなと思っていました。

【松本会長】

今のお話は御質問というよりは御意見ということで承ってよろしいでしょうか。特段、事務局等からの回答は不要でしょうか。

【山田園子委員】

意見で問題ありません。

【松本会長】

ありがとうございます。もう一点、中学二年生・高校二年生に設定したのは、2016

年に実施した「子ども生活実態調査」が当該学年だったので、そこと比較可能な点があるかどうかというのは、前回の審議会で議論された点の一つであったということもあり、コロナに焦点を絞って何かを実施していくという発想というよりは、もう少し広くという経過もありました。これがよかったかどうかはまた別問題ではありますが。

私の方から、どちらかというと安定しているということでしたけれども、一方で、かなり影響があったのであろうということが分かるというか、生活リズムにしても、体を動かす機会にしても、何割の子が影響を感じていることや、特に学校の再開について、多くの子が感じなかったという評価よりも、中学生で4%・7%、高校生で4%・10%の子が逆に不安を感じていたということなので、10人に1人くらい、クラスで言えば数名程度が影響を感じているという方が、むしろ我々が見ておくべき点かと思います。多くの子が影響を感じていないではなくて。少数派ではあるけれども確実にこういう子は存在しているということが大事なということと、大体ざっと回答は分かるが、情報提供については、回答が分かれにくい。なので、当初の混乱がやはりあって、こういうことが大事だと皆思ったことが、影響のある子もない子も思ったということを推察するので、今後の対応のときにも大変貴重な資料だと思うこと、高校生の進路について、多くが進路に影響はなかったと回答しているが、まだ高校2年生なので、2年生の段階で約10%の子が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答しているので、かなり深刻な影響が出ているとみた方がいいだろうと感じました。

数字を見て感じたことは以上ですが、数字の捉え方で、むしろ少数の方でも、例えば10%とか20%くらいのところで存在している方に注意を向けるということが大事であるということと、特に高校生なんかは進路に関係しているので、2年生の段階でこれくらいの影響が出ているので、実際にその後の進路選択がどうなったかということについて、むしろ三年生の進路のところで見つめる必要があるかなと思っています。

【五嶋委員】

アンケートの質問の中からですが、不安を感じていると回答した子どもについて、私たちのところへの相談では、1年生ではあるが教室に行けなくなった、コロナいじめみたいなものが、風邪の症状がある子どもに対して起こって、学校を辞めざるを得なくなったであるとか、そこから起因して不登校になったという問題があったが、ただこの不安を感じたというのが、コロナに対して不安を感じたのか、学校に対して不安を感じたのか、そういったいじめを意識して不安を感じたのか、そうした中身が見えないので、そういったところも意識した調査を具体的に実施していただけたらよかったのではないかと思います。

あと、経済的な理由に関する質問について、札幌ユニオンに去年の秋お招きいただいて、私たちの訪問事業だったり、お弁当配りだったりの活動をお話させていただいたが、その時に共働きしている親が、子どもが休みのために仕事も休まざるを得なくなったということがありました。そういったところで、自分のせいで親が仕事を辞めてしまったと考えているお子さんもいらっしゃるの、そういったところの部分も2年生として意識しているのかという、経済的な理由、あまり目に見えていないお子さんもいらっしゃるかもしれませんが、そういったところをダイレクトに感じて回答したお子さんもいらっしゃるのかなと感じたので、参考までに意識していただけたらなと思います。

【藤井委員】

先ほど委員長がおっしゃたように、質問5のところでは学校生活になじめなくなったり、不安を感じたということですが、私思春期外来を病院でやっております、思春期外来にこういった形で、学校に行けなくなったという子どもたちが病院を訪れております。なので、ここで合わせて10%から15%弱の子どもたちに影響が出ているであろうと、委員長と同じく実感しております。

この間、外来の方に、今回の調査では対象は公立高校でしたけれども、私立高校の子どもたちも受診しています。私立高校あるいは私立中学では既にリモート授業を実施していますが、公立高校と私立高校の違いや格差がここに出てきているのではないかと感じております。

学校ごとの格差もそうですし、経済状況における家庭内における格差というものもアンケートの項目に是非加えていただきたいなと思います。質問5の公立高校の学校側の取組というものが、具体的には、先生方も御苦労されているとは思いますが、取組まれていたのか分からないので、教えていただきたいと思います。

【松本会長】

では、学校の取組ということと、あともう一つ藤井委員からの発言の中で、外来にきている子ども、注意しておく必要があるのは今回のアンケートは、学校でのアンケートなので、学校に来られている子どもでということ、来られなかった子ども、つまり影響が強く出ている子どもについては、逆に漏れていると考える必要があるかと思っております。

【教育庁教育政策課 中田主査】

今のアンケートにもございましたように、不安を感じた方が一定数いらっしゃるということで、新型コロナの感染拡大に伴う生活環境の変化など、そういった状況によって、子どもたちのストレスあるいは生活への不安が広がっている状況にあると考え

ております。そういった状況も踏まえ、これまで以上に児童・生徒一人一人に寄り添ったケアが重要であると考えております。これまでも、学校におきましては、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーの派遣、更には24時間の電話相談などの対応のほか、SNS・LINE利用した取組などを実施してきておりました。今後も専門機関等と連携した組織的な相談体制が実施できるよう取組を進めてまいりたいと考えております。

【松本会長】

私の方からお願いですが、アンケートを実施した生徒に結果を返すということは企画されていますか。やっとならいいと思います。アンケートを実施したらこんな風になったよということで。そして、是非学校の先生にも知っていただいて、それぞれの学校なりでお考えいただいたり、議論の素材にさせていただいたりということが大事だと思います。

大体アンケートはその後分からないということがありますので、年度内に間に合いますので、それほど難しいことでもないですし、それぞれのクラスなりで先生方がお声かけいただく素材にさせていただくことが大事だと思いますので、その点をお願いしたいと思います。

【中込副会長】

今の会長のアンケートの回答を学校に戻すべきという意見に強く賛成をします。その際、回答を戻す際には、審議会で意見の挙がった「不安があった」だったり、「将来の影響についてほとんどなかった」という評価ではなくて、一定数いたという点は修正して戻していただいた方が、生徒それぞれ個人個人は不安を感じていても、他の方も同じであったのか、皆が不安を感じていたということに共感を持って、少し安心につながるかもしれないので、そういった対応をしていただきたいと思います。以上、意見でした。

【事務局】

了解いたしました。資料を修正させていただき、委員の皆様にご確認いただいた上で、対応したいと思います。

【松本会長】

委員の皆様への確認はそれほど時間を取られないと思いますので、御検討をお願いします。

【事務局】

了解いたしました。

【五嶋委員】

質問になりますが、質問10のオンライン環境について、半数以上の子どもたちがオンライン環境が必要であると回答していますが、私たちも昨年、北海道の局長宛てにウイルス対策の提言書として提出させていただいた中に、オンライン環境を整えてほしいと書かせていただいたのですが、未だに実態としては進んでいないと思います。大学の方はしっかりとオンライン環境が整ったにも関わらず、小中高が整っていないのはなぜかという問い合わせが保護者からも来ている状況です。なぜそうしたニーズがあるかという点、コロナの状況で学校が休校になってしまうという状況が繰り返し起こっていますので、その間の学習環境について、どうして環境を整えてくれないのかといった声が届いています。

このため、是非オンライン環境、様々な状況に対して対応できる状況をしっかり作っていただきたいと考えているのですが、その辺りについてお考えにあるのか伺いたいなと思いました。

【教育庁教育政策課 中田主査】

オンライン環境・ICT環境の整備についてですが、小中学校、義務教育の段階ではございますが、国のギガスクール構想、こちらの方で端末に関する補助などがございまして、そちらの方で各学校を設置している市町村の方で活用しながら、小中学校段階におきましては、一人一台の端末環境を整えられるように今年度中に環境を整備の上、次年度以降本格的に運用できるようにといった流れになるかと考えています。

また、高等学校の段階につきましても、同じように一人一台端末の環境を整備できるよう検討を進めていくといった状況になっております。

いずれにしても、オンライン・端末の環境を整えるということと、各学校の先生がICTを活用する資質・能力の向上を図るといったことを、研修を充実させるということと対応してまいりたいと考えております。

《 審議事項 》

【松本会長】

それでは、続いて次年度の子ども部会の開催事項について、お願いいたします。

【子ども子育て支援課 小野主査】

お配りしております資料2「北海道子どもの未来づくり審議会子ども部会の実施方法について」を御覧ください。

子ども部会については、テーマや開催場所、ファシリテーターによるグループ討議の進め方等に関して、委員の皆様から御意見をいただいていたところであり、実施方法について見直しを行うべく、事務局の方で案を作成いたしました。本日、その案を御審議いただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず、資料2の1、子ども部会の「設置目的等」ですが、少子化対策推進条例第9条により定められておまして、「少子化対策の推進」に関する事項を、子どもの視点により調査するなど意見を聴取することを目的として設置したものです。

次に2「これまでの実施方法」です。道内の中・高校生が、「北海道のめざす姿」などのテーマについて、グループワークにより課題や解決策を討議し、各グループの代表者が発表後、発表内容を全体で討議するものです。

それでは、今後の実施方法について、別紙1、別紙2により提案させていただきます。別紙1を御覧ください。まず、「1. 参集範囲」ですが、これまでどおり、中学生及び高校生計17名程度と考えており、内訳は、各振興局から公立の中学生又は高校生各1名で14振興局から14名、特別支援学校1名、私立中学・高校各1名で予定しております。

次に、「2. 実施時期等」ですが、これまでは、夏休みと冬休みの各1日、年2回、札幌で開催しておりましたが、一番遠方の方で、1回当たり2泊3日、2回で4泊6日の行程となっておりますことから、参加者の負担軽減のため、年1回、夏休み期間中の2日としたいと考えております。

次に、「3. テーマ」ですが、これまでは、「北海道の目指す姿」など、抽象的なテーマが多かったことから、生徒が日頃から関心を寄せている内容で、具体的にイメージがしやすいものとし、例えば、「北海道で家族をもって暮らしていくために望むこと」、「地域で子育てをサポートできる環境づくりについて」などでグループ討議に入りやすい内容を検討しています。テーマは次回の審議会で、委員の皆様にお諮りします。

次に、「4. 部会の実施方法」ですが、事前学習として、資料提供し、少子化の現状や道の取組などを学習していただきます。

また、生徒さん達に実体験や体感が必要だと考えておまして、部会の前にそれぞれの参加者の地域の施設見学を導入したいと考えております。こちらについては、一つの施設に大勢が集まることは今後も施設側が難色を示す可能性が高いことや各地域の施設を見ていただくことで地域性を踏まえた討議ができることを目的としています。開催方法については、ここに示しているのは、あくまでコロナウイルス感染症が収束し安全確認ができていればという前提ですが、過去の参加者の方のアンケート結果から札幌での開催について肯定的な回答が多かったことや地方開催の場合は参加者の確保が困難なことから、これまでどおり生徒が一堂に会して札幌市内で実施したいと考えております。

次に、「5. 部会の内容（基本的な実施方法）」ですが、テーマに関係する講演を実施し、共通の話題と知識の共有を図りたいと考えております。グループワークについては、これまでどおり、中学生と高校生の合同グループを3グループ程度編成し、高校生をリーダーとして選出したいと考えております。これは、中・高生の合同チームとすることで幅広い年代からの意見を討議することができることや高校生の中学生に対するリーダーシップを促すことを目的としております。

また、議論の円滑化と活性化を図るため、各グループのファシリテーターとして、教育庁社会教育主事の活用を予定しております

グループワークの結果発表ですが、これまでは、課題や解決策など、紙に貼り付けて行っておりましたが、今の子どもたちが、パソコンに慣れてきている、特に高校生の方は相当使えることから、パソコンを活用することとし、議論しながら入力できることや時間短縮にもつながるメリットがあると考えております。グループ発表の後の全体討議及び全体の総括については、これまでどおりと考えております。

最後に、「(2) 日程等」ですが、開催日数は夏休み期間中の2日間で考えております。日程については、あくまで予定ではございますが、1日目は午後からスタートし、オリエンテーション、講演、グループワークといった運びで考えています。2日目は朝からスタートして、グループワークまとめ、発表、全体討議、全体総括を予定しております。こちらが別紙1の基本的な考え方でございます。

次に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の場合の実施方法について、御説明いたします。別紙2を御覧ください。こちらは、令和3年度の実施方法として、イメージしております。基本的な考え方は変わりませんが、「3. テーマ」について、生徒が日頃から関心を寄せている内容をテーマとすることを予定してありまして、具体的にイメージがしやすいものとして、「新型コロナウイルス感染症拡大の中で子育てしやすい社会」についてですとか、あるいは、「新型コロナウイルス感染症拡大の中で自分の将来について考えること」などで検討しております。

先ほど申し上げた「4. 施設見学」については、実施することが難しいと考えております。また、生徒が一堂に会して対面で実施することは難しいためオンラインによる開催としたいと考えております。

最後に「5. 日程」についてですが、オンラインでの開催とすることで一か所に参集する必要がないことから、先ほど申し上げました内容を一日で朝から夕方までの日程としたいと考えております。

以上です。よろしくお願いいたします。

【松本会長】

なかなかこういった状況の中でこういった形で開催ができるか難しい中、2パターン考えて御提案いただいたというところですが、ちょっと議論の進め方ですけど

も、テーマについては、次回再度御提案があつて、次回の会議において決定するという事で間違いありませんね（事務局同意）。では、まずは大枠こういった形で問題ないか御確認いただいて、テーマ等については御意見をいただいて、次回また御提案いただくということでそういう理解で間違いありませんね（事務局同意）。

御意見をいただく前に確認ですが、子ども部会の持ち方って毎回ずっと議論になっていて、子どもさんが集まっていたいて、ざっくばらんにいうとアリバイ作りになっても困るよねと、そういう嫌いがなかったか、せつかく子ども部会があるので、我々もどう学べるのかというところが議論になっていた中で、コロナでなかなか難しくなつて、去年はアンケート調査で声を聞こうというのが経過だと理解しています。

その時に、2019年度以前のやり方と、2021年度のやり方と、何が違うのか御説明いただいた方が、いろいろ意見がいいやすいと思います。ゼロベースからまた議論し始めると大変なので、2020年度についてはイレギュラーであることを前提に、2019年度まで議論してきたもので、このところをこう変えていこうとなつたというようことを御説明いただけますか。

【子ども子育て支援課 吉田課長】

まず、子ども部会の大きな改正・見直しについてですが、テーマについては、少し漠然としていたので、私たちも実際子どもさんの御意見を伺って、どういったものを道としても考えていったらいいのか、ある程度テーマを絞つての議論にさせていただいた方がいいのではないかと、それとまた、今まで子どもからの提案型で実施していたので、それにつきましては、審議会の委員の皆様、実際に現場の声を反映できる皆様の御意見をお伺いしてテーマを決めていきたいと考えています。

また、部会のあり方として、ただ集まっていたくという前に、実際に子育て支援をしている現場を見ていただいた上で、子どもさんの中にもリアリティーを感じていただきながら、自分の思っていること、あるいは、将来こうあるべきではといった意見を出していただければと考えているところでございます。

実施方法については、やり方として効率的なやり方を実施しないと参加されている方の便宜上のももでございますので、日程をある程度凝縮して、実際にやる方法として、今までの方法よりも、今のお子さんはパソコンも活用できるので使用する。実施方法としては、そのような形となりますが、お子さんの意見を引き出すというか、お話をどう進めて意見を自由に出していただくかという観点から、実際の現場で活躍されている社会教育主事をお招きして、進め方のアドバイスをしてもらって、議事のやり方を誘導していただき、テーマの中から議論していただき意見を出してもらう。その中で私たちの足りなかった視点や今後の工夫等を明確にしていきたいと考え、見直しをさせていただきたいと考えております。

【松本会長】

分かりました。テーマについて、もう少し身近に感じられるもので設定していこうと、そしてこの審議会で議論していこうと、あと、期間の圧縮で集まりやすいようにしようと、議論の時にファシリテーターを立てて、社会教育主事に入っていただくことと、見学とか実際の現場を見ていただき話をしようと。こういうところですね。この間ずっと議論してきたことで、一旦の変更点として。

この御説明を前提に、前段の枠組、あるいは、テーマの設定等についていろいろ御意見をいただければと思います。今回初めて参加の委員におかれましては、議論の経過を御存じないかもしれませんが、実質的なものにするためには、どのようにしたらいいのかという議論が何年かあった中での御提案ということで御了解いただければと思います。

【山田智子委員】

私の方から二つお話させていただきます。これまでの部会の持ち方というか、テーマについてですが、北海道の子育て環境について、大人と同じ視点で考えるということもあるかと思いますが、育てている当事者というか、子どもに当事者としての声を拾ったらいいいのではないかというのが一つあります。

それと、子どもが子育てに触れる場所として、施設見学が保育所というのがありますが、保育所は子どもと保育士がいる場所だと思うのですが、子育ての実際のところに触れるのであれば、道内に400カ所ある地域子育て支拠点、子育て支援センターとか子育て広場といった名称で行われている乳幼児、親子が集う場所があります。そちらの方を子どもたちが訪れて、乳幼児と触れ合うだけではなくて、子育て中の親にも触れるということも大事ではないかと感じました。

【松本会長】

ありがとうございます。一点目については、私も後で発言しようと思っていたのですが、テーマについて、どんな施策がいいですかというよりも、今どんな暮らしをしていてどんなことに困っているかといった、子どもに聞かなければ分からないようなことを聞いた方がいいと思います。例えば、道の現状についてどう思いますかといったような質問ではなく、地域で今こんなことに困っていると、先ほどのアンケートを提示して子どもに聞いたらどう思うのかといったような、日々の暮らしなり生活、考えを教えてもらおうと考えた方がいいのではと思います。山田（智子）委員の御発言もこういった趣旨の御発言かと思います。これまでの審議会でもこういった御発言が出ていたと思います。

もう一点、保育所ではなくむしろ別の選択肢も考えた方がいいのではということ、一つ具体的な例を出していただきました。その他、全体的な進め方としては、提

案のような形で問題ないでしょうか。

【中込副会長】

これまでの議論の経過が分からない中で大変恐縮ですが、参加者は簡単に集まるものなのでしょうか。というのも、高校生であれば2泊3日でも一人で参加できるかもしれませんが、2泊3日となると親御さんが引率できる学生に限定されてしまうのではという点と、現在弁護士会でも学生向けのイベントを実施していて、ZOOMだと参加しやすいですといった御意見もいただいている、ZOOMで実施すれば今まで参加が難しかった生徒さんについても参加できるのではと考えました。

ZOOMで実施した場合、朝から晩までというのは負担になるので、感染拡大の状況ではなくても、2泊3日ではない開催方法もいいのではと考えました。

【子ども子育て支援課 小野主査】

これまでですが、参加者の参集につきましては、14振興局を通じて14名の参加を募っていたところで、それが集まりやすいかという点については、現状、何人か当たってみて決まったという声も聞いてはおります。

それと、行程のお話については、最大2泊3日ということもありまして、日程を短縮、あるいは、ZOOMで開催ということでお話をさせていただいたところです。基本的な考え方の中にとということ、ZOOMということをお提案いただいたところですが、基本的な考え方については、あくまで感染が収束した上でという前提になります、そういった前提で札幌に一堂に介した上でということをお提案させていただいております。

【子ども子育て支援課 吉田課長】

補足させていただきます。まず2泊3日で今まで実施してきましたが、高校生の場合はお一人で、中学生の場合は親御さんがついて来てくれるか、できない場合は、振興局の職員が引率をしていました。このため、御心配等は必要ないという中で、教育委員会を通じて学校といろいろ相談をさせていただきながら、希望者を募ったというところです。

やはりそういう中でも、負担になるかなということ、まずは日程を短縮したい、次に、全てZOOMで実施するかという考えもあるかと思ひまして、先ほどファシリテーターの関係でお話をいただきましたが、社会教育主事の方はプロなので、その方と実際相談させていただいて、全部をZOOMにするのか、あるいは、実際に集まるのかを議論した中で、やはり実際に顔を見合わせて実施することが非常に重要なんだと。このため、全部ZOOMというよりも、会うということも考えてやってみようかということ、コロナの状況下ではZOOMしかないということになるかと思ひ

ますが、今の段階では、まずは一回集まると、ただ日程を短縮した上で実施する。実施が難しそうであればZOOMで開催するという事で御提案させていただいたところです。

先ほど松本会長がおっしゃたように子どもさんからテーマを聞くということも考えておきまして、教育委員会や現場の先生からも子どもさんのことを考えてもらうということも考えながら、審議会の先生からも御意見をお伺いしつつテーマを決定したいと考えています。

また、施設見学の保育所の関係についても、テーマによって決まってくるかと思いますが、地域によっては保育所がないといったところもございますので、お子さんが実施どのような場所に興味があるのかというような観点からも決定したいと考えております。

【松本会長】

今のお話としては、全体をZOOMでやるということも検討した上で、直接会って知らない人と会えるといったメリットも生かしつつ、選択肢としては一旦、検討材料として残していただくということでよろしいでしょうか（事務局同意）。

テーマについては、子どもに聞くというよりも、私としては、今回のアンケート結果について意見を率直に聞く方が、つながりがあるのではと考えています。

【五嶋委員】

日程等については、対面とZOOMと二つ御用意いただいたというのは大変いいと思うのですが、子どもとメディアの相関についての相談ごとが今増えていまして、9時から16時半まで一貫して子どもたちがZOOMでワークショップを実施するのは、ちょっとしんどいのではないかなと思います。一日ではなく、複数日に分けた方がいいのではというのが、正直な意見です。

コロナ禍で自分の子どもにもZOOMの受講をさせたりしたんですけれども、1時間で結構頭が一杯になっていますし、3時間になると、主催者側が休憩をまめに入れたり、子どもたちをフォローしながら実施する必要があるので、こうしたところを考慮していただいた方がいいのではと思いました。

テーマに関しては、昨年以前からずっと申し上げているとおり、大人を見てどう思うかというところを引き出していきたいのと、孤独と孤立がコロナ禍で注目されていて、なぜそのような状況に陥るかという、施設に集まってくる親子はもちろんですが、情報提供が行き届いていません。そこについても、今の子どもはSNSやパソコンを当たり前のように利用できるのも、そういう意見を是非吸い上げていただけたらと思います。

【松本会長】

ZOOMで丸一日というのは、きついと思いますので、二日にバラすということも可能性として考えて、案を作成した方がいいなと御意見をお伺いしながら思いました。大学生でもこれではきついと思います。

【子ども子育て支援課 吉田課長】

御指摘の点については、検討させていただきます。

【松本会長】

日程は二日押さえておいて、集まれなかったら半日ずつZOOMでやるとした方が、余裕が出ると思います（事務局同意）。

他に御意見がなければ、テーマについて、もう少し子どもの目線で大人の施策に対する評価を聞くというよりは、今の暮らしを聞いたかどうかということと、アンケートをせっかく実施したので、この延長で議論の素材にしてもらったらどうかというような意見が出ました。また、テーマはまた御検討いただいて、この場で確認いただくということでもいいと思いますので、いろいろお考えもあるかと思しますので、事務局まで意見をお寄せいただければ、それを集約していただき、また御提案いただけると思います。

案については、コロナのときと、そうでないときとありますが、日程については、2日確保していただいて、集まれるか・集まれないかということだけで方法を変えたらという御意見だと思います。

あと、全体をZOOMでやるかという点については、今後の感染状況に関わらず検討し、選択肢として残していただいて、前は2回集まっていたのを1回をZOOM・1回を対面にするなど、いろんな組み合わせがあると思いますので、それについては、宿題として残しておきながら、今年度はこういう形で一旦集まることを前提に進めさせていただければと思います。

時期は夏休みくらいでしょうか（事務局同意）。では、年度明けの時点で一旦こういった形でという提案をいただく場を持つということでもよろしいでしょうか。テーマを含めて（事務局同意）。

あと、見学をするのであれば保育所だけではなく、地域に開かれた場所を選んでもいいのではという御提案もありました。見学場所についても、それこそ感染状況に応じてということになりますので、あまり無理のない範囲でということになります。

その他御意見がなければ、いくつか修正提案ができましたので、それを含んで御了解いただいたということでもよろしいでしょうか（一同同意）。

それでは、予定されていた議事は終了となりますので、これで議事は終了いたします。

《閉 会》

【子ども子育て支援課 寄木課長補佐】

松本会長、各委員の皆様、大変お疲れさまでした。今後も、各委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から、引き続き御協力くださいますよう、よろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、「令和2年度第2回北海道子どもの未来づくり審議会」を閉会させていただきます。委員の皆様、本日はありがとうございました。

(了)